

令和5年度 楡木小学校学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）
<p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>

考察「1 一人一人の児童生徒の尊重」では、児童、保護者、教職員とも肯定的回答が9割に達している。特に児童の「そう思う」の評価が教職員、保護者に比べて高い。「2 道徳・心の教育の充実」では、保護者、教職員とも肯定的回答が9割を超えている。心の教育の充実に向けて、「心かがやけ月間」（11月）に全校で親子道徳に取り組んだことや学級で気になることはその日のうちに保護者へ報告をするなど各担任の日々のきめ細かな積み重ねが肯定的に受け止められていると捉えている。今後も全校で取り組みを継続させていきたい。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していますか。
<p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>

考察「3 授業力向上」では、児童、保護者、教職員とも肯定的回答が昨年度に引き続き9割に達している。中でも保護者の評価は昨年度から7%増加した。「4 タブレット端末活用」では、児童、保護者、教職員とも肯定的回答がほぼ100%に近い結果であった。今年度は学校行事や授業参観を制限なく実施していることやタブレット活用が児童や教職員にとってスタンダードになっていることが結果に影響していると捉えている。授業力向上にタブレット端末活用は欠かせないので、授業力向上とタブレット端末活用を一体的に取り組んでいきたい。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

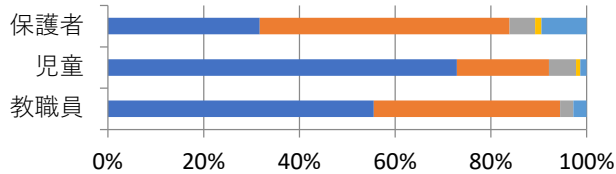
5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。
<p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>

考察「5 学校の支援体制」では、教職員は肯定的回答が100%に近いのに対し保護者は「わからない」の回答が全体の2割近くを占めた。「6 共生社会を担う人材の育成」では、児童の肯定的回答が昨年度に比べ減少（98%→88%）し、保護者は「わからない」の回答が全体の2割近くを占めた。校内での支援体制や交流及び共同学習の効果は保護者からは見えづらく、「わからない」の回答につながっていると言えるので、保護者への周知が必要である。また、交流及び共同学習の児童評価も減少していることから友だちと学ぶよさを意識化できるように学校としても取り組んでいきたい。

④学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

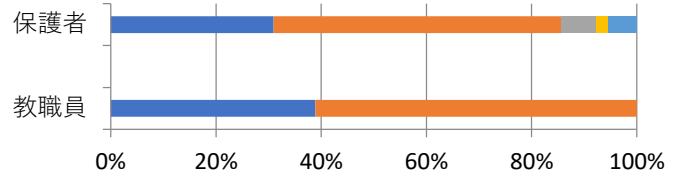
7 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



8 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

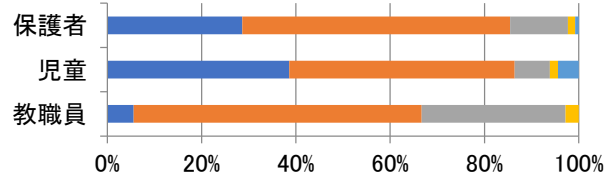


考察 「7 安全と事故防止」では、教職員の「そう思う」が昨年度より上がっていた。(47%→56%) 「8 家庭や地域との連携協力」では、肯定的回答が教職員は100%に達しているのに対し保護者は85%で差が見られ、「わからない」の保護者回答も5%見られた。今年度は、学期始めの朝の登校指導を下校時の指導に切り替えるなどより実態に即して行っていることが教職員の意識変化に表れていると思われる。「8 家庭や地域との連携協力」の教職員と保護者の結果の差については、保護者との連携は個々への対応が中心で全体が保護者に見えにくいことが影響していると思われる。今後、学校の支援体制と同様、保護者への効果的な周知について検討していきたい。

⑤基本的な生活習慣の育成（学校項目）

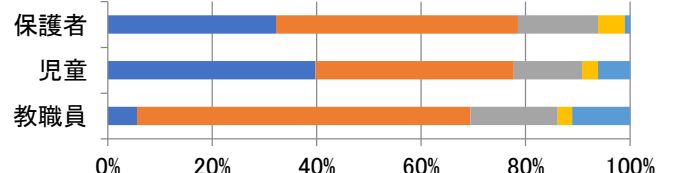
9 あいさつや返事

子どもは、はきはきとした返事や明るいあいさつができるように気をつけて生活していると思いますか。



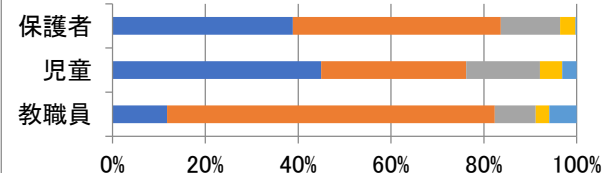
10 家庭学習の習慣

子どもは、家庭学習が習慣になるように気をつけて生活していると思いますか。



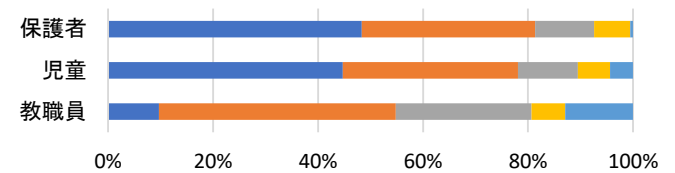
11 早寝・早起き・朝ごはん

子どもは、早寝・早起き・朝ごはんに気を付けて生活していると思いますか。



12 タブレットの使い方

子どもは、夜9時以降は使わない、学習に関係のないことには使わないなどのルールに気をつけてタブレットを使っていますか。



考察 9から12は本校独自の項目である。「9 あいさつや返事」では、児童、保護者と教職員に大きな差が見られる。これは、児童や保護者が自身や各家庭についての評価しているのに対して教職員は学級や学校全体で評価していることによると思われる。あいさつは楠中学校区の共通取組事項でもあるので、これからも実践を続けていきたい。「10 家庭学習の習慣化」では、否定的回答も昨年度と同程度の一定数見られるので、習慣化していない児童への声かけを今後も行っていきたい。「11 早寝・早起き・朝ごはん」でも、やはり否定的回答が2割程度見られるので、この2割程度の個への対策が必要である。「12 タブレットの使い方」では、教職員の肯定的回答は半数程度である。学校での様子からもルールを守れていない児童も見られるので、引き続き家庭の協力も得ながら取り組んでいきたい。

来年度の具体的な取組について

心の教育の充実や確かな学力向上への取組は昨年度同様評価が高かったので引き続き取り組んでいく。中でも授業力向上についてはタブレット端末活用と一体的に進め、児童の学習意欲や学力の向上につながるように校内研修の中心として取り組む。一方、学校の支援体制については今年度から始めた自由参観日の実施意義や学校の支援体制について学校便りや学級懇談会等で紹介するなど効果的に周知し、基本的な生活習慣の連携も含めて学校と保護者の協力体制を整えていきたい。

学校関係者評価

学校項目の「タブレットの使い方」について個人のタブレットやスマホを所持している児童もいて家庭状況が影響することも考えられる中、使い方のルールが守られていない現状や直接伝え合うコミュニケーションの大切さについて意見が出された。コミュニケーションについてはメール等の媒体をとおした方法から直接伝える方法へ変更したことで共通理解につながっている例も出された。

本年度4月に「こども基本法」も施行されているので、学校としても「こども基本法」の理念に沿って子ども理解に努めていくことや子どもの意見も尊重しながら家庭と連携協力を図りながら対応していきたい。